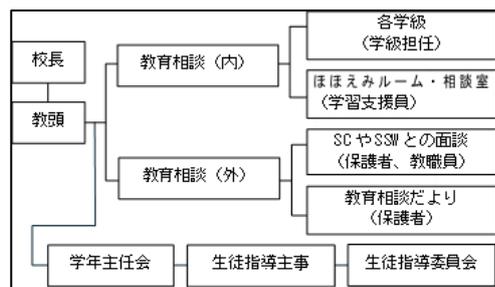


令和7年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」 成果報告書

1 指定校・指定校群 (高松市立太田小学校)

2 実施内容

- ・不登校対応の組織づくりを行い、関係機関の窓口、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと保護者をつなぐ役割などを明確にした。(右図)



- ・児童の背景を踏まえた分類を行い、本事業での対応の具体を明確にした。(下の表)

分類		方針	主な関わり	対応
A群	登校するが教室には入りにくい児童	新たな不登校をつくらない	担任	学習の支援や思いを聞く場の設定 スクールカウンセラーとの相談の場の設定 授業改善(解決への見通し)
B群	登校するが教室に入れない児童		非常勤講師 教頭、養護教諭	
C群	欠席が多いが登校すれば教室に入ることができる児童	不登校を解消する	学習支援員 非常勤講師	保護者と担任や学習支援員との情報共有 スクールカウンセラーとの面談(児童・保護者)
D群	欠席が多く教室に入れない児童		学習支援員 非常勤講師 養護教諭 関係機関	別室での、オンライン授業の支援、学習支援 保護者と担任や学習支援員との情報共有 スクールカウンセラーとの面談(児童・保護者) 高松市子ども女性相談課等との連携
E群	家庭等の連携が特に重要と考えられる児童(出席がない)		行政機関 スクールソーシャルワーカー	教頭が中心となり情報を集め、高松市子ども女性相談課、スクールソーシャルワーカーと連携して、家庭への福祉支援や不登校支援を行う。

- ・サポートルームや保健室などの居場所となる部屋の環境づくりを行った。

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童の様子

- ・学習支援員が1日の中で対応することができるので、学習活動を支援するだけでなく給食をいっしょに食べることができ、それを楽しみにしている児童も複数人いる。いっしょに給食を食べるために登校してくる児童も出てきた。
- ・学級担任と学習支援員が連携することで、GIGA端末を活用したオンライン授業で学級に関わることができるようになった。ワークシートや教材などの扱いを事前に打ち合わせることで、別室での対応ができるようになった。その後、対象児童は何度か教室に入ることもできた。
- ・スクールカウンセラーだけでなく、学習支援員と担任、保護者で面談し、目標の共有や支援の方向性を確認できることで、保護者の安心を得ることができた。そのため、学校の様子と家庭での様子の情報共有を

より具体的に行うことができ、サポートルームが児童の安心できる場所になった。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- ・学習支援員の勤務時間と、学級担任が打ち合わせを行える時間があっていないこともあり、学習支援員と学級担任が情報交換できるようなファイルを作成した。学習支援員からはサポートルームの様子を、学級担任からは時間割や学習内容や教材の扱いなどの情報を提供し、互いに共有している。

情報共有できるワークシート

令和7年度 KSRに関する主な児童の状況 2025.11.13現在

番号	児童名	学年	担任	主な実態内容
1				①学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。②学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。③学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。
2				①学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。②学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。③学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。
3				①学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。②学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。③学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。
4				①学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。②学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。③学習支援員がいない、担任が強いによる「高学年の児童」を担任が担当している。

- ・GIGA端末を利用したオンライン学習や個別に学習できる環境づくりを行った。



活動を支える材料置き場



サポートルーム



くつろぎスペース



個別の学習スペース

(3) 総括

- ・本事業の決定（3月25日）から年度のスタート（4月1日）までの期間が短く、十分な組織づくりや環境づくりが行えなかった。
- ・学習支援員の配置等の決定も5月以降となり、4月の対応は実質できていない。また、年間の勤務時間も320時間のため勤務の曜日が限定され、連続した支援は難しかった。
- ・サポートルームの環境づくりでは、費用をかけられないこともあり、校内の既存のものを利用する方法に限られた。
- ・サポートルームと保健室の両方を活用していたが、保健室では病気やけがの児童が増えた場合、どちらの対応も難しくなった。サポートルームのみで対応が必要だと感じた。